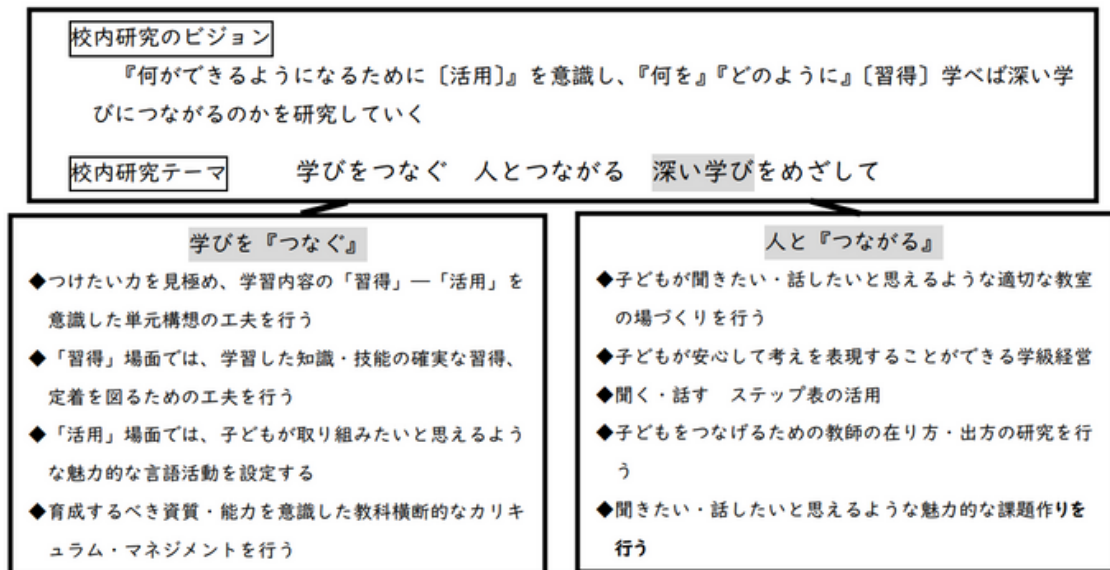


## 取組み レポート

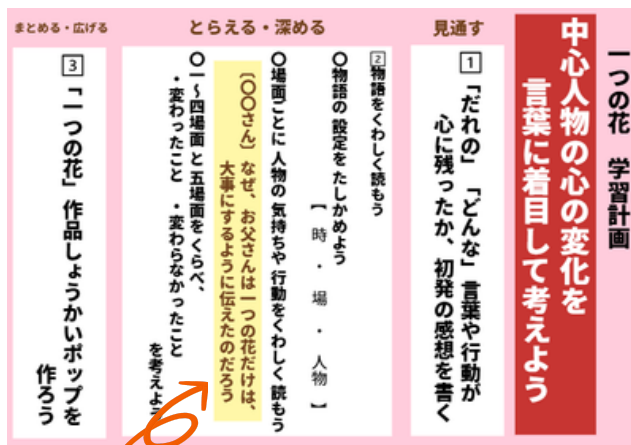
## 「見通し」×「対話」＝学びの深まり

研究のスタートから約2か月。話し合いや実践を重ねる中で、私たちの研究が目指すべき方向性が少しずつ明確になってきました。本校では、「何ができるようになるか」という”活用”の視点を常に意識しながら、そのために「何を、どのように学んでいくか」という”習得”のプロセスにも焦点を当て、授業改善に取り組んでいます。そのための具体的な取り組みについてお知らせします。



## 取組み①〔単元マップ〕

子どもと単元の流れを共有。つけたい力を常に意識し、見通しを持って学ぶことができます。型をそろえ、教員同士の思考の可視化や共有を進めるようにしています。高学年では、自分たちで単元の流れを話し合っています。



初発の感想から出てきた「問い」を学習の中に追加。自分で出した問いが単元の中に位置づけられることで、学びの当事者になり、探求心や意欲を引き出すことがなげらいです。

## 取組み②

### 〔聞く・話すステップ表〕

聞く・話す活動が、具体的なレベルに分解され、「どの段階までできていればよいか」を明確にできます。本校では聞く・話すともに1～2...低学年、3～4...中学年、5～6...高学年を目標としています。また、対話の中で使えるようになりたい言葉を併せて掲示することでより具体的に指導できるようにしています。

#### あたたかいきき方 ステップ表

- 6 相手が伝えたいこと・自分の聞きたいこと  
（相手の中心をはっきりさせて聞き、新たな自分の考えを持つ）
- 5 相手が伝えたいことの中心に注意し、  
問い返しながらかき
- 4 相手が伝えたいことと、自分の考えをくらべながらかき  
（同じ・似ている、違う・ていない）
- 3 相手が伝えたいことを理解し、  
自分の言葉で言えるようにきく
- 2 相手の話をきいて、つなげる  
（聞き方あいうえお、質問する、感想を言う）
- 1 相手を見て、最後まできく

#### やさしいはなし方 ステップ表

- 6 自分の考えが伝わるように、（文章・数・  
図・表・グラフなど）を使って話す
- 5 自分の考えが伝わるように、と考え・意  
見を区別して話す
- 4 自分の考えが伝わるように、  
理由や事例をつけて話す
- 3 自分の考えが伝わっているか  
確かめながら話す
- 2 自分の考えが伝わるように、相手に向  
かって話す
- 1 自分の考えが伝わるように、ちょうどよい声  
の大きさや速さで話す

月に1回アンケートを実施。クラスの80%以上の子どもが「できている」と回答していれば達成！ステップ表に花丸を掲示しています。

取組み  
レポート

## "新聞"から学び、"140文字"で伝える

朝の教室に響くのは、新聞をじっと見つめるまなざしと、鉛筆の走る音。

子どもたちは「新聞視写」で正確な文章にふれ、言葉のちからを吸収しています。そして140文字主張文では、自分の考えを短い文章にまとめて表現する練習に取り組んでいます。

この2つの活動は、学力の土台を支えるとともに、自分の思いを言葉にする力を少しずつ伸ばしています。

## 取り組み③〔新聞視写〕

2～3年...135文字、4～6年...330文字の課題に10分間で取り組んでいます。

ねらいは...

- ①文章を意味ごとのまとまりでとらえられるようになる
  - ②使える言葉の数を増やす
  - ③使える漢字の数を増やす
  - ④いろいろな情報に関心をもち、考える力を育てる
  - ⑤ビジョントレーニングにより、写す速さ、短期記憶力をきたえる
  - ⑥集中力を高める
- と設定しています。

と設定しています。



新聞で アップデート

「毎日小学生新聞」2025年6月12日(木)

## 外来のキク 子どもたちが除去

環球

月 日 名前 ( )

[illegible][illegible]

新聞記事という正しい文章にふれることで、言葉の使い方や文章構成への理解を深めることができます。回を重ねるごとに少しずつ視写できる量が増えてきました。また、視写が終わった子ども向けに、文章の内容を読み取る問題も載せています。

取り組み④〔140字主張文〕  
〔作文シート〕

3～4年生…作文シート、5～6年生…140字主張文に取り組んでいます。

ねらいは...

- ①自分の考えを伝える機会を増やす
- ②自分の考えを伝える構成力が高まる
- ③使える言葉の数を増やす
- ④使える漢字の数を増やす
- ④集中力を高める

と設定しています。

(裏)

(表)

[illegible]

作文シート

140 文字主張

[illegible]

それぞれに**自己チェック欄**をつけています。自分が書いた文章を客観的に読み返すことで、誤字脱字、てにをは、文のつながりなどのミスに**自分で気付く力**を高めることができます。また、より伝わる文章にするために表現を工夫するなど**伝える力の向上につながる**と考えています。

校内研修  
レポート

## 第1回校内研究授業 (1)

まとめる・広げる

3 筆者の説明の仕方のよさをこれからの書く活動に活かそう。

とらえる・深める

2 筆者の考えをとらえよう

1 「思いやりのデザイン」で学習したことを活かして「アップとルーズで伝える」を読み、感想を書こう。

見通す

学習計画

文章の組み立てに気をつけて読み、筆者の説明の仕方のよさを考えよう。

授業で扱う内容

① 伝えたいこと(要旨) 書かれていることの読み取り

② 書きぶりの効果について考える

③ 書く(言語活動) ※必要に応じて※

説明文とは：

筆者が伝えたいことを伝えるために工夫をして書いた文章

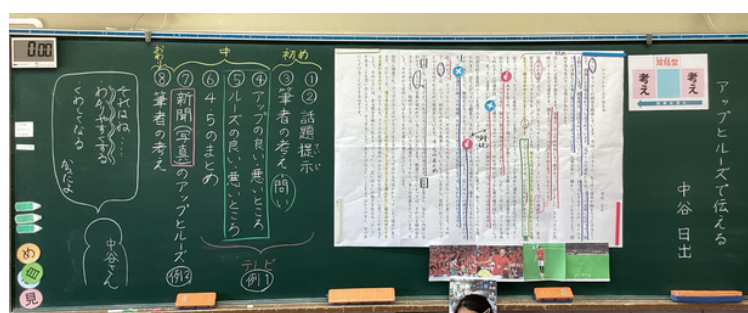
### 学びをつなぐ

- つけたたい力を見極め、単元マップを作成。
- 〈習得〉動画と写真の事例が書かれていることを理解できるよう、また、アップとルーズの役割について実感させるため、単元の導入と終わりに動画を見せる。
- 資料と文章を組み合わせて考える工夫をし、事例を対比的に説明する文章の構成であることを捉えやすくした。
- 〈活用〉言語活動では、理科で観察してきた校内のツバメについてのポスターに合う写真を選び、選んだ理由を書いた。



### 人とつながる

- 探究学習につながる話す・聞くステップ表の活用。お互いの顔が見えやすく、友達の意見を聞き合い、繋げやすいよう座席の設定(コの字)。
- 分からないときは、分からないと言える安心感のある学級づくり。
- ペアでの相談や全体共有の場を設定し、対話が問題解決につながるようにした。



## 校内研修 レポート

# 第1回校内研究授業 (2)

研究討議の後、和泉市教育委員会の五島指導主事にお話をいただきました。

Q. 「アップとルーズで伝える」の学習で、はじめ・中・終わりに分ける時に、6段落のこのようにという言葉につられて中なのか、終わりなのかと意見がわれました。

A. 児童に考えさせる場面、教える場面と分ける必要がある。始めに書かれていること、終わりに書かれていることはこういうことと事前に教えておくが良い。各学年でどこまで習得させるかを各学年で把握しておく必要がある。全てを児童に考えさせる必要はない。記号接地（言葉と認知の一致）

適地福

Q. 「アップとルーズで伝える」の学習で対比して説明することの良さを子どもたちがさらに感じるには、どうしたら良かったのでしょうか。

A. 筆者の伝えたいことに戻ると良かった。今回は双括型の説明文なので、はじめと終わりに筆者の伝えたいことが書いてある。

適地福

Q. 話す・聞くステップ表を全クラスで取り組む意味は？

A. 人の意見を聞いて理解してうなずいたり、自分の意見と似ている、違うと反応し、意見を繋げていくということは探究学習を進める上で欠かせないスキルである。スイミーのように職員一丸となって、力を合わせて取り組んでいくことが大切。

適地福

| あたにかいきき方 ステップ表                               | やさしいはなし方 ステップ表                       |
|----------------------------------------------|--------------------------------------|
| 6 相手の伝えたいこと・自分の聞きたいことをはっきりさせて聞き、新たな自分の考えを持つ  | 6 自分の考えが伝わるように、(文章・数・図表・グラフなど)を使って話す |
| 5 相手が伝えたいことの中心に注意し、問い返しながらく                  | 5 自分の考えが伝わるように、事実と考えや意見を区別して話す       |
| 4 相手が伝えたいことと、自分の考えをくらべながらきく(同じ・似ている、違う・にている) | 4 自分の考えが伝わるように、理由や事例をつけて話す           |
| 3 相手が伝えたいことを理解し、自分の言葉で言えるようにきく               | 3 自分の考えが伝わっているか確かめながら話す              |
| 2 相手の話をきいて、つなげる(聞き方、うなずき、質問する、感想を言う)         | 2 自分の考えが伝わるように、相手に向かって話す             |
| 1 相手を見て、最後まできく                               | 1 自分の考えが伝わるように、ちょうどよい声の大きさや速さで話す     |

Q. 単元マップを作る意味は？

A. 児童が見通しを持ち、学習に向かうため。

児童が1人で単元マップのようなものを作れるようになるため。

100年後はさらにAI社会が進んでいる。チャットGPTが普及している今、知識技能を重視した学習だけでは、社会に出た時に役に立たない。自ら問いを設定し、情報収集し、整理分析し、まとめ、新たな問いへという探究的な学びをさまざまな教科で取り組むことで、AI社会を生き抜く力を持つ児童を育てることができる。答えのない問いに出会った時、解決するために自分で計画をたて解決できる児童を育てていく必要がある。

適地福